

Un Jour

アンジュール

「アンジュール」は仏語で「ある日」の意味です



女性消防団員はひとり暮らしの高齢者の方への防火思想の普及啓発、幼年消防移動防火教室の実施、普通救命講習会の指導など幅広い活動を行っています。女性消防団員になって5年目。仕事と活動を両立しているすてきな女性です。(写真：青森市 一戸俊江さん)

特集

女性の視点の防災ノート そのときは突然やってくる

今回の特集は「女性の視点の防災ノート」です。
あなたは、災害の被害にあったことがないからと安心していませんか。しかし、ないとはいえないXデー。

さて阪神・淡路大震災以来、各地が見舞われた災害のなかで、「女性だから困ったこと」「女性が置かれている立場ならではの困難」がクローズアップされました。

一方、復興活動を元気に続けるのは、生活力を持ち地域とのつながりも強い女性たちだったという情報もあります。

大きな災害が起これば公的機関がなにもかもを担うことはできないでしょう。災害時に大切なことは「自助・共助・公助」ともいわれています。

自分のこととして、防災を考えてみませんか。

子どもが、幼稚園や学校に行っている時に地震があったら：仕事先からどうやって迎えに行こう？市外の仕事先から帰れるだろうか？車社会で、一日飛び回る私は、不安になった。
(30代・女性・方向音痴な母)

我が家の災害対策は、トイレの水!! ペットボトルやお風呂のお湯は落とさず溜めてます。あれ？飲み水の用意を忘れていたかも...。(40代・女性・飲み水が心配になった一人も)

アンジュールの私の言の葉

死んだ父が「もし、地震が来たら、どこにいても、蔵に歩いて集合」と言っていた。蔵には、乾パン・玄米・塩・梅干・コンロやろうそくなど、戦争を体験した人の知恵が詰まっていたように思う。さて、父と同じ年になった私の地震の備えは、なんともお粗末である。(60代・男性・ノーマンな中年?男)

1月の「市民活動企画展」に行ってきました。カダールが開館して8年。カダールを中心に市民の輪が広がってきているのね♥(50代・女性・学び・行動し続ける主婦)

「地震・雷・火事・おやじ」ってというのは、恐いものの代名詞とか?「うちの親父は、怖くないよ。でも、ここ一番の時は頼りになるかも...」(10代・男性・進路に悩む高校生)

みんな違ってみんな良い!! だけど、お互いを認め、尊重するって、すごく難しい!! それって、本当は基本だよねえ。(10代・女性・迷える乙女)

「男女共同参画都市」青森宣言

私は私を大切に思うのと同じ重さで
あなたを大切に思う

性別を超え
世代を超え
時代を超え

人と協調し 人を信頼できる
誇り高い人間でありたい

すべての人の自立と平等をめざして
青森はここに「男女共同参画都市」を
宣言します。

平成8年10月22日 青森市

そのときは突然やってくる

女性の視点の防災ノート

突然、大きな自然災害に見舞われたら、高齢女性の一人暮らしの方は？ 青森在住の外国の方は？ どう対応したらよいのでしょうか。また、避難先の生活は何が問題となるのでしょうか。今回は新潟の震災から学ぶコーナー、青森市の自然災害の歴史やお役立ちグッズの紹介、そして、市民活動企画展で開催した防災に関するワークショップの結果を含め、災害時にこそほしい男女共同参画の視点をアンジェールは提言します。

災害弱者に取り残されませんか？ —災害弱者

災害弱者といわれる方々がいます。平成3年版「防災白書」の定義からまとめてみると、自分の身に危険が迫ったとき、情報の入手能力や発信能力に欠ける方や情報を入手しても行動に移すことが困難な方と考えられます。

■高年齢者、特に高齢の女性へ
阪神・淡路大震災の被害状況からみると、高齢者、特に高齢の女性の死亡率が高くなっています。体力の低下した高齢の方が自力で避難することが困難であったと考えられます。老朽化した家屋も原因のひとつです。防災の面からも高齢者の一人

暮らし世帯の把握と住環境の改善が必要ではないでしょうか。避難誘導には地域の力が、そして経済的負担の大きい住環境の改善には公的援助が必要かもしれません。

■急増する外国の方へ
青森市に居住する外国の方が増えています。言葉が通じないことで、突然の災害から身を守るための情報入手がより困難になると考えられます。防災パンフレットの翻訳版の配布やFM放送等を利用しての避難誘導など、民間と行政の協働を推し進めていくことも必要ではないでしょうか。

苦しいときこそほしいやさしい視点 —男女共同参画

突然の災害から難を逃れ、避難生活が始まったときにも、女性を取り巻く社会的性差がさまざまな問題を引き起こします。後述の大島煦美子さんが提言されるように、女性にとっては日常の『性役割』が重く圧しかかってきます。

■働く場の理解と地域の協働
働く女性が大きな災害により職を失う例は少なくありません。家族間で協力体制ができれば一番よいでしょう。でも、シングルマザー・ファザーが早期

に仕事に復帰するのは難しいと考えます。働く場の理解が必要となってきます。災害休暇や短時間正社員制度導入などが求められています。また、避難所などで住民の協働による保育や介護のサービスをすることも可能ではないでしょうか。

■相談に男女共同参画の視点を
男女を問わず、自分のつらさを語れる場としても男女共同参画の視点が入った相談窓口の早期開設が望まれます。心の元氣は生活再建への一歩でしょう。

視点

大島 煦美子
(財)新潟県女性財団理事長
災害時の男女共同参画

2004年10月23日午後5時56分、突然、新潟県中越地方は震度7の激震に襲われ、震源地からは離れた新潟市に住む私は被害はななくとも職場関係者や親戚、友人、知人の安否確認ができるまでの

2、3日は眠れぬ夜が続いたのでした。これからの防災と災害復興のありかたなど行政を中心に検証されてきています。

しかし「災害時における女性」に視点をあて、被災した女性たちのおかれた立場をお聞きしますと、解決しなければならぬ多くの問題点が浮かび上がってくるのです。新潟県中越大震災で見えた、特に女性のおかれた現実と、非常時における人権のあり方をほんの1、2例ですがお話ししてみたいと思います。



大島 煦美子(おおしま くみこ)
財団法人新潟県女性財団理事長。男女共同参画をテーマに新潟県内行政・企業等職員研修会講師や講演。「災害と女性のテーマでは全国的に講演活動。文部科学省平成18年度女性へのチャレンジ支援企画委員。国土交通省北陸地方整備局事業評価監視委員会委員。(財)新潟県中越大震災復興基金理事など。

平常時から社会的性差に敏感な視点を

避難所では、夫はあたりまえのように職場へすぐに復帰し、余震が続く恐怖の中、家族の世話や避難所での食事当番や雑事はあたりまえのように女性に課せられ辛かった。パートも辞めざるをえない状態になった。(主婦の話より)

男女の管理職の立場では、男性の職場復帰は早かったが女性には本人の意思にかかわらず、家族からも避難所などの周囲からも良い嫁・母・妻の立場を先ず求められたため職場のことは後回しにせざるをえなかった。男性社員から女性管理職は無責任と非難する声があり、その女性管理職がいきれず降格人事にせざるをえなかったことが残念で悔しい。(女性副社長の話より)

男性は仕事、女性は仕事も家事も育児も介護もと性別役割分担意識のためです。この事例のような解決策はお互いに仕事責任と家庭責任を担い合うように工夫することです。男性の職場復帰を1週間続け、次の週は女性が職場へそして男性が家庭責任を。交互に続けるうちに平常な時間が戻ってくるのではと思うのです。

災害を受け復興に立ち向かえる何より力は、元氣になれることです。それは社会的性差に縛られず、辛いことを辛いと言い、お互いを認め支えあえる環境があることです。これこそ何よりの日ごろからの防災対策と思えてならないのです。

おすすめします！家族防災会議

- 避難場所・道路の確認
青森市は小学校区別に指定避難所があります。避難所と道順を確認しておきましょう
- 家族の役割分担を決めておこう
災害時の役割分担を話し合います。学校や幼稚園などにいる子どもの引き取り役も忘れずに
- 災害伝言ダイヤル「171」
家族間、親類、友人の安否確認に使えます

ワークショップ「グラッときたら」から1/28開催 知っていましたか 自主防災組織



災害時においては「自助・共助・公助」といわれています。自助は、非常時に自分たちの身を守る備えです。一方、共助は自主防災組織のように地域のことは地域で守ろうという取り組みです。災害時の自主防災組織の役割は、地域の情報連絡、避難・誘導、火時の初期消火、救出・救援、給食・給水と多岐にわたります。自主防災活動に対する支援制度もあります。

天災は忘れた頃にやってくる

青森市の歴史をひも解くと、記録的な災害にしばしば襲われていることに気づきます。今となっては記憶もあいまいになりつつあるその災害を伝えることが、未来への防災を考えることになるのではないのでしょうか。

- 地震
▼1968年(昭和43)5月16日 十勝沖地震 マグニチュード7.9 青森市震度5
市内40%に給水している横内浄水場の機能がマヒ。停電、断水、火災、当日の余震は震度5を最高に震度1以上が21回、市内の死者5人、重軽傷者54人



レンガ塀が倒れ死者もでた青森市港町(青森県史編さんグループ所蔵)

- 【証言】(昭和15年生まれ・女性)
そのとき、私はつわりで2階に寝ていた。ちよっとグラッと揺れた。ここにいると死んでしまおうと思って階段を降りようとしたが、途中で縦揺れがきて階段の柱につかまったが柱が抜けるようだった。水、電気が止まり、その夜は小さい子どもをおんぶしていても逃げられるようにして過ごした。余震はかなり長く続き、強い余震も何度かあった。
- ▼1983年(昭和58)5月26日 日本海中部地震 マグニチュード7.7 青森市震度4
沖館地区の石油貯蔵タンクと青森駅ホームが沈下。
- ▼1993年(平成5)1月15日 釧路沖地震 マグニチュード7.8 青森市震度4
- ▼1994年(平成6)12月28日 三陸はるか沖地震 マグニチュード7.5 青森市震度5

- 水害台風
▼1969年(昭和44)8月24日 堤川のはらん
台風9号による大雨水害。桜川団地、花園町などが濁流に襲われ、国道4号線を超えて港町、茶屋町まで流れ込んだ。花園地区は軒先まで水に浸かった。住宅浸水約1万2千世帯、全壊・流失8棟、半壊7棟、被害総額約41億5千万円



花園町一帯の水害状況(よりよい明日のために!!=災害の記録=より)

- 速報 on line
【証言】(昭和32年生まれ・女性)
朝から猛烈な風が吹き、学校からは連絡網で休校との知らせ。飛来物で居間の出窓が割れ、落ちたガラス片は隣家の車を傷つけた。
- 雪害
▼1977年(昭和52)年2月8日 青森市で最深積雪195cm
▼1986年(昭和61)2月6日 青森市で最深積雪194cm
▼2005年(平成17)3月3日 青森市で最深積雪178cm

ニュースの



国の防災と男女共同参画基本計画

阪神・淡路大震災の際、メディアではあまり取り上げられませんでした。①震災で女性が男性よりも1000人多く亡くなった背景にあった「女性の貧困の問題」②パート労働者の大量解雇にみられる「女性と労働の問題」③災害時に増えた「女性に対する暴力」など、「男は仕事、女は家庭」という典型的な男女の役割分担の弊害も、震災で一層浮彫りになりました。

このように阪神・淡路大震災や新潟県中越地震など近年の災害発生時の経験から、被災時には増大した家庭的責任が女性に集中することなどの問題が明らかになり、防災(復興)対策は、男女のニーズの違いを把握して進める必要があることが明らかになりました。

これら被災・復興状況における女性をめぐる諸問題を解決するため、男女共同参画基本計画(第2次)においては、新たな取り組みを必要とする四つの分野の一つとして、「防災(災害復興を含む)」を位置づけ、防災に関する政策・方針決定過程への女性の参画の拡大等の具体的施策を盛り込んでいきます。

●女性の悩み相談 カダール相談室●

パートナーからの暴力で悩んでいる、自分自身の生き方や家庭のことで相談したいなど、あなたの抱えている悩みを相談員がお聞きします。

毎週月・木(祝日・年末年始・休館日を除く)

○電話相談 ☎017-776-8850
10:00~12:00
○面接相談 13:00~16:00

* 面接相談は予約が必要です。

平日9:00~18:00 ☎017-776-8858

<発行>

青森市市民文化都市市民協働推進課
男女共同参画室

〒030-8555 青森市中央1-22-5

☎ 017(734)2296 FAX 017(734)5232

<編集スタッフ>

企画集団プチジュール:白井壽美枝・
藤川あきつ・小山内世喜子・阿部美智子・
千代谷直美・堀内美穂・沼田久美・松山佳子



お気軽に「市民協働カウンター」をお訪ねください

平成19年4月に、地域コミュニティ・国際交流・男女参画推進業務を統合し、新たに「市民協働推進課」が設置されましたが、協働のパートナーである市民と行政がまちづくりに関する情報を共有しあい、情報を活用できる相談窓口として「市民協働カウンター」を開設しています。

このカウンターは、町会やNPOの皆さんと市が協働で行う公益的な諸活動について、ご相談の受け付けや情報提供などの支援を行い、協働の取り組みの質や量を充実させていくことを目的にし、皆さんの自主的な公益的活動をお手伝いしたいと考えております。

「やりたいことはあるけれど、どこに何を相談すればいいのかわからない」「事業の手助けになる補助金はあるの?」などのご相談はございませんか?

市民協働カウンターでは、どの部署に相談すべきか、誰が協力できるか、有利な補助金情報やその申請方法、人集めや協力グループの紹介などお知らせいたしますので、お気軽に市役所市民協働推進課をご利用下さい。(市民協働推進課長 平田公成)

問合せ先
市民協働推進課
市民協働推進チーム
電話 017-734-5231

「では、失礼します」と大きく重そうな機材を肩に担いでひらりと出て行った取材記者。長い黒髪、スラリと華奢な彼女は、ひとりでカメラも回しインタビューもして帰って行きました。

「カメラが重いしねえ」「泊まり込みもあるし」と、報道部門に女性スタッフが少ない理由を聞いたのは、十年前になるかもしれない。今や、彼女も、この間来た人もあの人も、ごく自然に取材に現れました。報道現場に、女性たちが増えていくらしい。

男性がダメと言うのではありませんよ。でもまだまだ希望の女性記者さんたちがいます。これ、課題だと思いませんか? 「ライフワークにしたい」って、ステキです!

がんばれ、女性記者さんたち!



♪INFORMATION♪

日本女性会議2009さかい…開催日時:平成21年10月30日(金)・31日(土)

大会テーマ「山の動く日きたる*~ジェンダー平等の宇宙(そら)へ~」

11月1日(日)にエクスカッション(観光視察等)

男女共同参画豆知識



「男女共同参画」という考え方は日本だけ?

いえいえ、1960~70年代に世界的な規模でフェミニズム運動が展開し、76年には「国連婦人の10年」が始まりました。そして、79年の国連総会で、「女性差別撤廃条約」が採択されたの。



「女性差別撤廃条約」?

そう、世界で「女性の憲法」ともいわれている。正式名称は「女子に対するあらゆる形態の差別の撤廃に関する条約」。The Convention on the Elimination of All Forms of Discrimination against Women (CEDAW)。教科書にも載っているわ。08年2月現在の加盟国は185カ国よ。



ということは、日本も関係ある?

Yes. 85年に批准しました。



批准して、何か変わったのかなあ。

日本は、この条約を締結した時に、国籍法の改正(日本人の母親と外国人の父親から生まれた子どもが日本国籍を取得できる)、男女雇用機会均等法の制定、中学校と高等学校における男女の家庭科共修などの法令改正を行ったのよ。



そうか。それ以前は、求人欄に「女性は容姿端麗・自宅通勤」なんて書いてあったって聞いたことがある。

加盟国政府は、国連の女子差別撤廃委員会に報告書を提出し、審議を受けるの。日本は、今年の7月に、4回目の審議を受ける予定よ。



※日本政府報告書、女子差別撤廃委員会の最終コメントは、

男女共同参画局のホームページ <http://www.gender.go.jp/>